モノづくりの副交感神経

■土佐 信道

2020年の6月，明和電機は北京の美術館にて大規模な展覧会の開催を予定していました．そこへ新型コロナウイルスが直撃し，やむなく翌年の2021年に展覧会は延期．しかし年が明けてもコロナウイルスは収束する気配はなく，展覧会は中止かとあきらめかけたときに美術館から「リモートで展示設営ができないか？」と打診がありました．

まず思ったのは「無理．ぜったいに無理」．理由は2つ．その1．明和電機の展示物は，すべてナンセンスマシーンと呼んでいる機械で，自分たちが現場で組み立て，調整しないと動かない．その2．展覧会の空間設計は図面と実際の現場ではぜったいイメージがズレるので，現地での最終調整は必須．こうした理由により，リモート展示は不可能のはずなのですが，僕はピンチになると逆に燃える性格なので，気づけば「できます」と美術館サイドに返答してました．

対応策として特注のコンテナを作り，ナンセンスマシーンは組み上がった状態で輸送，現地では取り出すだけにしました．空間設計は，CGで展示空間をしっかり作り，それを日本と中国の制作チームがクラウドで共有して細部を詰めました．また特注のコンテナはレゴのように組み合わせると展示台やステージになり，図面と現場のイメージのズレを抑えました．

こうした工夫を積み重ね，展覧会は無事にオープンし，中国のみなさんが会場で楽しんでいる様子がSNS

■ 土佐 信道
明和電機

土佐信道プロデュースによる芸術ユニット．さまざまなナンセンスマシーンを開発しライブや展覧会など，国内外で広く発表している．音符の形の電子楽器「オタマトーン」などの商品開発も行う．オタマトーンは累計売り上げ数 100 万本の大ヒット商品．

などを通して届きはじめました．しかし，現場作業をやっていないので「この展示空間は本当に現実なのか?」という感覚がどうしてもありました．人間のからだで例えると「モノづくりの交換神経」は働いたけれど，「モノづくりの副交感神経」が働いていない感じでした．

もう1つコロナがらみで似たような体験がありました．2022年の7月にコロナウイルスに感染し，ホテルでの監禁生活を体験しました．熱は2日目で下がり，いたって元気な状態でのホテル生活となりました．監禁中，ちょうど秋葉原にある明和電機のお店をリニューアルするときで，やはりCGで店舗をしっかり作ってシミュレーションし，ZOOMで制作スタッフに作業指示しました．なんだか刑務所にいるマフィアのボスが組員に指示してるみたいでおかしかったのですが，「モノづくりの副交感神経」がぜんぜん働いていないので，欲求不満でどっと疲れました．

未来に向けてコンピュータのシミュレーション技術やデジタルファブリケーションはますます発達します．今まで「自分がジジイになって体が動かないころには，指先一本でものが作れるだろう．なんてラッキー」と思ってましたが，今回の2つの体験で，その考えに「待った」がかかりました．自分がジジイになったとき，「モノづくりの副交感神経」を満たすテクノロジーが不足したままならば，自分はマウスをいじくるよりも，鉛筆を握って紙に絵を描くだろう．リアリティとはそういうことかと，今回のコロナの件で気づかされました．